

筋萎縮性側索硬化症および前頭側頭型認知症における ALS-FTD-Q 調査研究
報告者氏名 花島律子¹⁾、荻野美恵子¹⁾、西山和利¹⁾
報告者所属 1) 北里大学医学部神経内科学

研究要旨

筋萎縮性側索硬化症（Amyotrophic Lateral Sclerosis:ALS）は前頭側頭葉型認知症（fronto-temporal dementia:FTD）と類似した行動変化や性格変化など神経心理学的症候、行動学的異常を呈することがある。しかし精神障害や運動障害のために患者からの聴取は困難なことが多く、家族等からの問診が重要となる。そこで鳥取大学脳神経内科の渡辺保裕らは ALS/FTD 症例の精神症状の評価法を確立することを研究目標とする横断研究を開始した。即ち ALS/behavioral variant 型 FTD 症例の精神症状の評価としてオランダから報告された ALS-FTD-questionnaire（ALS-FTD-Q）の日本語版（ALS-FTD-Q-J）を作成し、それを用いる検討の妥当性を評価することとした。我々はこの横断研究の参加症例を増やすため協力した。

A.研究目的

研究班員である渡辺保裕（鳥取大学医学部医学科脳神経医学講座脳神経内科学分野）らが報告する ALS-FTD-Q-J 横断研究に対しての参加症例を増やすことを目的とした。

B.研究方法

研究方法は上記の渡辺らの方法を参照されたい。倫理面については、当施設での倫理委員会にも承認をとっていることを追記したい。

C.研究結果、D.考察、E.結論、F.健康危険情報

研究結果、考察、等については、上記の渡辺らの報告を参照されたい。当施設では倫理委員会での承認に予定外の時間を要したこと、組み入れる症例の選定に困難を伴ったこと、から 2 症例での ALS-FTD-Q-J 実施にとどまった。検査結果は渡辺保裕らに送り、全体解析に使用された。

G.研究発表

当施設から単独の論文発表や学会発表はない。

H.知的所有権の取得状況（予定を含む）

- 1.特許取得
当施設からの取得はない。
- 2.実用新案登録
当施設からの取得はない。
- 3.その他
当施設からの取得はない。